

正誤表

本書中に訂正箇所等がございました。訂正し、お詫び致します。お手数をお掛けしますが、訂正箇所を書き込んでお使いいただきますよう、お願い申し上げます。
(2011年8月25日作成)

<本正誤表掲載情報>

[P1-2] 第2～4刷をおもちの方が必要な修正箇所

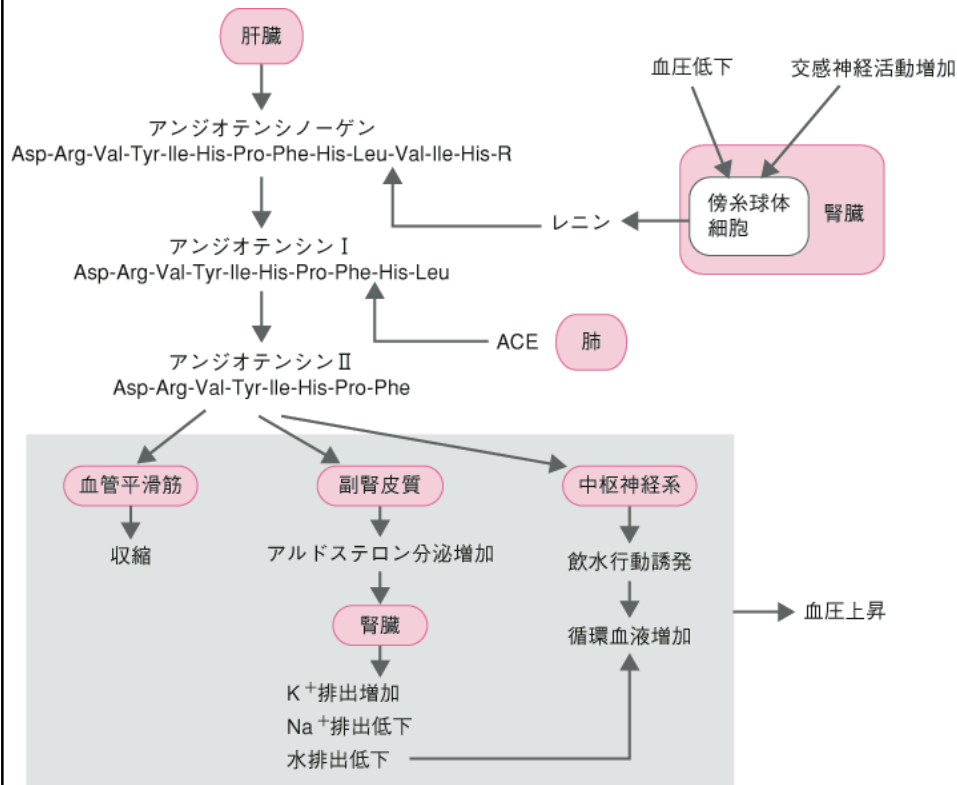
[P2-4] 第1刷をおもちの方が必要な修正箇所

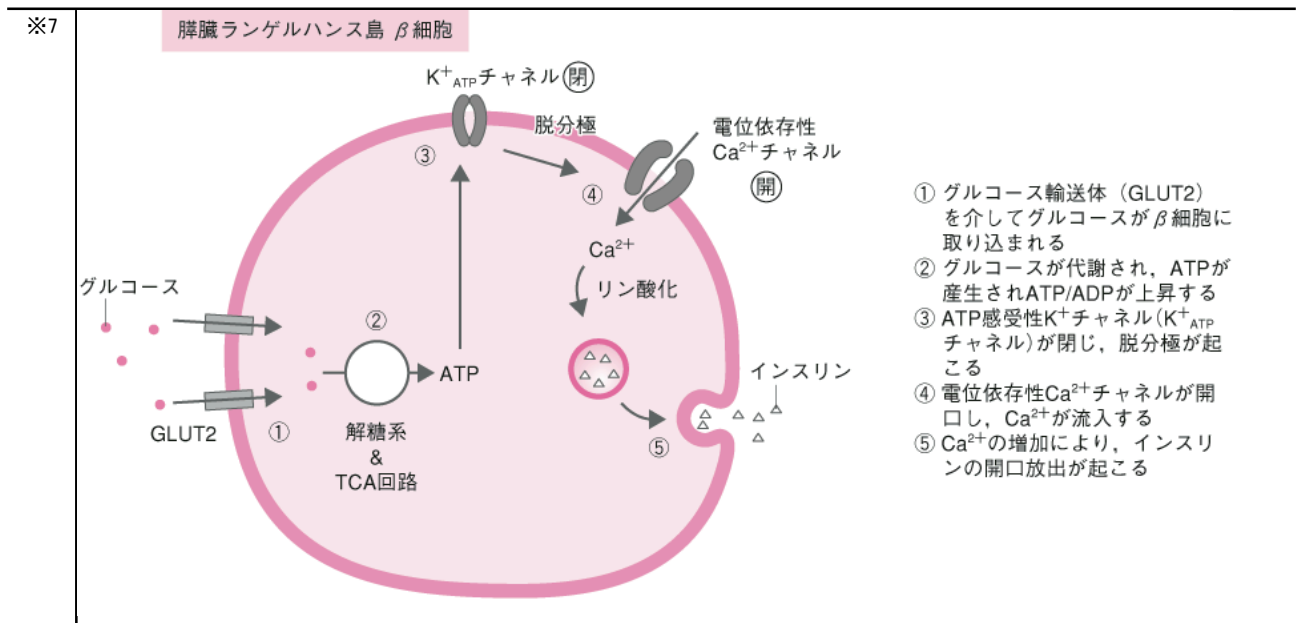
■ 第2～4刷をおもちの方が必要な修正箇所

頁	場所	誤	正	補足	掲載
第15章					
129	図9		アンジオテンシノーゲン, アンジオテンシン I, アンジオテンシン II のアミノ酸配列を修正	※6差し替え	11/08/25
第21章					
176	図7	GLUT	GLUT2	※7差し替え	11/08/25

図表

※6





■第1刷(2007年3月15日発行)をおもちの方が必要な修正箇所

頁	場所	誤	正	補足	掲載
第4章					
39	図5			※1差し替え	11/01/11
第7章					
59	上から4行目	それを 神経活動電位 (活動電位の時系列)に変換するしくみが備わっている.	それを 神経活動 (活動電位の時系列)に変換するしくみが備わっている.		11/01/11
第11章					
93	図8 B)	複合スパイク	複雑スパイク	※2差し替え	11/01/11
93	本文右段上から3行目	そのインパルスはプルキンエ細胞に 複合スパイク と呼ばれる大きな群発射を引き起こす(図8B).	そのインパルスはプルキンエ細胞に 複雑スパイク と呼ばれる大きな群発射を引き起こす(図8B).		11/01/11
第14章					
119	本文左段上から5行目	赤血球がもつ 炭酸脱水素酵素 *5がこの反応を促進する.	赤血球がもつ 炭酸脱水素酵素 *5がこの反応を促進する.		11/01/11
120	本文右段上から1行目	赤血球*7に含まれる 炭酸脱水素酵素 は酸塩基平衡に重要である(前述).	赤血球*7に含まれる 炭酸脱水素酵素 は酸塩基平衡に重要である(前述).		11/01/11
第15章					
129	図9		アンジオテンシノーゲン, アンジオテンシン I, アンジオテンシン II のアミノ酸配列を修正	※6差し替え	11/08/25
第21章					
176	図7	GLUT	GLUT2	※7差し替え	11/08/25
第23章					
191	概略図左側	腔	腔	※3差し替え	11/01/11
192	図1	腔	腔	※4差し替え	11/01/11
195	図5	セルトリ細胞に核が入ります		※5差し替え	11/01/11
196	本文左段上から8~11行目	すなわち、陰核が勃起し、 腔 口周囲などが充血し、粘液が小陰唇の下にあるバルトリン腺や 腔 上皮から分泌される。この粘液は性交時の潤滑作用をもち、陰茎の 腔 への挿入を助け、	すなわち、陰核が勃起し、 腔 口周囲などが充血し、粘液が小陰唇の下にあるバルトリン腺や 腔 上皮から分泌される。この粘液は性交時の潤滑作用をもち、陰茎の 腔 への挿入を助け、		11/01/11
196	本文左段下から7~9行目	腔 内で射精される精液は平均3ml、精子数でいえば約3億である。 腔 内に射精された精子の大部分は 腔 内に残存するか 腔 外へ流れ出るが、	腔 内で射精される精液は平均3ml、精子数でいえば約3億である。 腔 内に射精された精子の大部分は 腔 内に残存するか 腔 外へ流れ出るが、		11/01/11

200	本文右段上から13行目	また、閉経後に腔内環境の変化による炎症が生じたり、骨粗鬆症、高脂血症などが発現したりする。	また、閉経後に腔内環境の変化による炎症が生じたり、骨粗鬆症、高脂血症などが発現したりする。	11/01/11
-----	-------------	---	---	----------

図表

※1

A) 単収縮 B) 収縮の加重 C) 不完全強縮 D) 完全強縮

張力

活動電位

刺激時点

..... 15Hz 30Hz

0.2秒

※2

B) プルキンエ細胞の活動 (細胞外記録)

複雑スパイク

単純スパイク

10 ms

※3

子宮

卵管

卵巣

卵管采

頸部

腔

※4

子宮

卵管

卵巣

卵管采

頸部

腔

脊柱

卵管

卵巣

子宮

膀胱

腔

肛門

※5

頭部

尖体

核

ミトコンドリア

尾部

鞭毛

精子

精細管

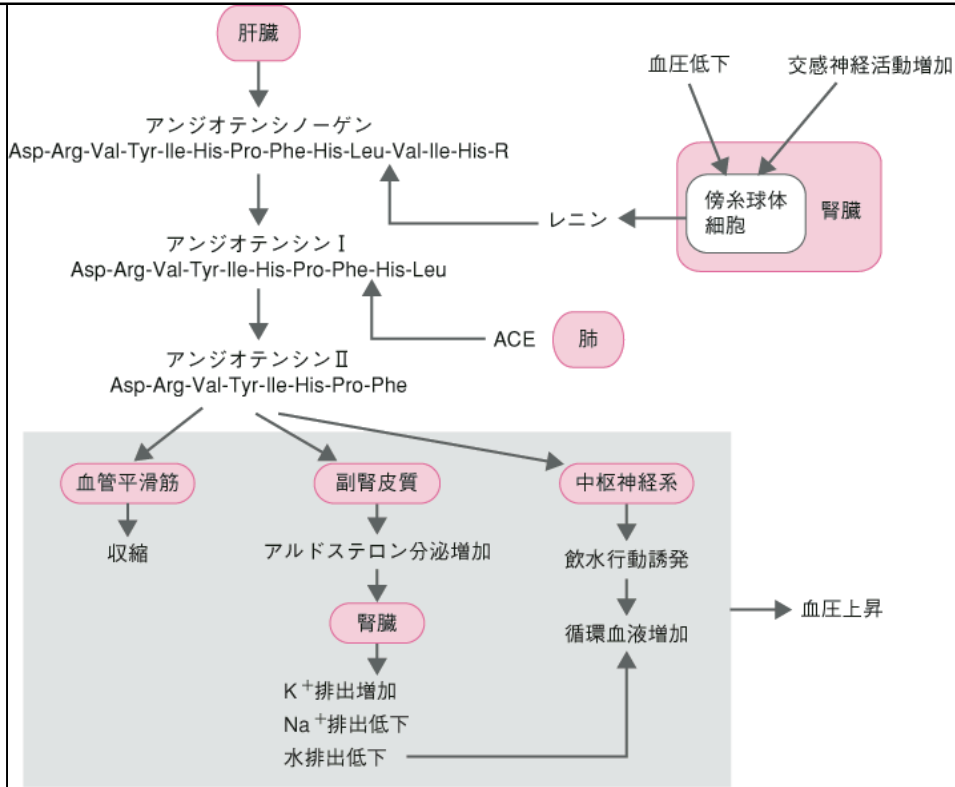
セルトリ細胞

精母細胞

精祖細胞

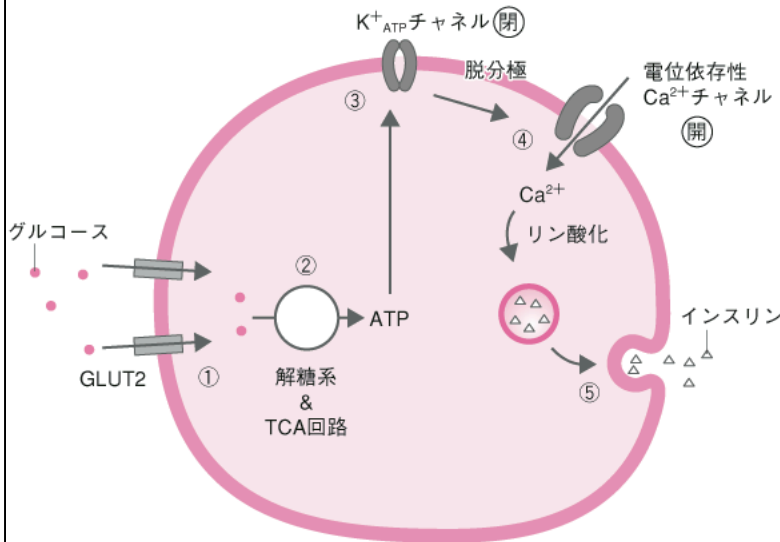
ライディッヒ細胞

※6



※7

膵臓 ランゲルハンス島 β 細胞



- ① グルコース輸送体 (GLUT2) を介してグルコースが β 細胞に取り込まれる
- ② グルコースが代謝され、ATPが産生されATP/ADPが上昇する
- ③ ATP感受性 K^+ チャネル(K^+ ATPチャネル)が閉じ、脱分極が起こる
- ④ 電位依存性 Ca^{2+} チャネルが開き、 Ca^{2+} が流入する
- ⑤ Ca^{2+} の増加により、インスリンの開口放出が起こる